

Atsuko Kudo Mail Magazine 226

2017.03.22

●悔い改め ●ハイチ ●イスラム教徒 S さん



Photo: C.Bauch

お元気でいらっしゃいますか？

寒くて暗い日々が続いていたハンブルクですが、昨日、今日と素晴らしい青空が広がり、我が家の庭には、ドイツで「イースターの鐘」（Osterglocken）と呼ばれるスイセンが咲きほころぶようになりました。

いつも AKWM のためにお祈りお支えくださり、本当にありがとうございます！多くの方々から、クリスマスカードや年賀状をいただきました。遅ればせながら、心からのお礼を申し上げます。

悔い改め

数か月ぶりにやっとメルマガをお送り出来る状態になりました。昨年があまりにも忙しかったので、今年は、じっくりとみことばに聞き、養われる必要を覚え、ドイツに戻ってからは、いくつかの重要なドイツ語の聖書の学びを、日本語に翻訳するようになりました。

霊的にとても深い内容なので、日本語に訳してみないと十分に理解できないと思ったのと、将来、日本人の皆さんにもお分かちできたらという思いからでした。しかし、日本語に訳すには、多くの時間と絶え間ない祈りが必要で、あっという間に夜になるような毎日が続きました。感謝なことに、スタッフのひとりが、毎日多くの時間を費やして校正をしてくれています。

今回の学びの翻訳から、聖霊によらなければ みことばの深みを理解できないこと、そのためには、絶えず主に内側を照らしていただき、絶え間ない悔い改めが必要であることを覚えました。この2か月ほど自分の罪深さを示されたことはなく、二人の人に罪を告白し、謝罪をするということにも導かれました。それほど、神のことばは聖であり、力あるものなのだと思います。

みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまのない者に悟りを与えます。

（詩 119:130）

今週は、翻訳を一旦休止して、コンサートの準備や原稿書きをしています。



ハイチ

先日、私たちの教会で、ハイチで宣教活動をしているイレーネ宣教師による報告会がありました。みなさんは、ハイチという国がどこにあるかご存じでしょうか。私は、中央アメリカの西インド諸島にハイチという国があることは知っていましたが、この国については、ほとんど何も知りませんでした。多くの皆さんにとっても、ハイチは知られざる国の一つだと思いますので、皆さんにこの国のために祈りいただきたく、ここに、ハイチとイレーネの働きを紹介させていただきます。

ドミニカ共和国に隣接するハイチは、国民の25%が福音派のクリスチャン、60～70%がカトリックです。しかし、この国のカトリックは、アフリカからの宗教にルーツを持つブドゥー教が混合しています。この国に福音派のクリスチャン人口が多いのは、隣国、キューバから多くの信者が逃れて来たからです。



イレーネ



ハリケーン「マシュー」による被害



イレーネは、ドレスメーカーとして働いた後、聖書学校で学び、ドイツの Vereine Deutsche Missionshilfe (ドイツ宣教協力法人) という団体の宣教師として、14年前にハイチに向かいました。

ハイチは西半球で最も貧しい国です。多くの親が子どもを養いきれないため、子どもを「キンダーハイム (子どもの家)」に入れます。ここに入れば、最低限の食事を得、また読み書きの教育も受けられるからです (国民の半数は慢性栄養失調、また多くの人が読み書きができません)。昨年10月には、ハリケーン「マシュー」がハイチを襲い、壊滅的な被害を受けたため、さらに多くの子どもが「キンダーハイム」に来るようになりました。

イレーネはそこで、2人のドイツ人女性宣教師と共に、「キンダーハイム」の子どもたちに、毎日、編み物やエプロン、袋作りを教えながら、週に3回、バイブル・スタディーをしています。

子どもたちは、16才を過ぎると「キンダーハイム」を出なければいけませんが、多くがここで学んだみこば

に支えられながら歩んでいます。しかし、極度の貧困の中で、信仰から離れ、正しい道を踏み外す子もいるそうです。どうぞ、イレーネを始め、「キンダーハイム」で働く宣教師たちのために、また彼女たちの働きを通して、ハイチの子どもたちが、イエス・キリストへの揺るがぬ信仰を得、主を見上げて歩んで行けるようお祈りください。



キンダーハイムの卒業生たち

イスラム教徒 S さん

ドイツでずっと救いを祈ってきた人のひとりに、トルコ人でイスラム教徒の美容師 S さんがいます。5年ほど前から彼女の小さな美容室に通うようになりましたが、Sさんは私がクリスチャンと知ると、好んで宗教の話をするようになりました。しかし、彼女はイスラム教の正しさを確信しており、私が、キリスト教は赦しと恵みの教えであると言っても (イスラム教には赦しも恵みもありません)、その時には驚きはするものの、次回行くと、また同じ話になって、初めて聞いたかのようにまた驚く、そのような繰り返しが続いていました。

2週間前、友人と電話でSさんのために祈ってから、彼女の美容院に行きました。でも、全く宗教の話題にはなりませんでした。ところが帰りがけに、Sさんが突然聖書について聞いてきたのです。そこで、簡単に言うなら、旧約聖書は、後に来られるメシアの預言が書かれた書物、新約は、2000年前に生まれたメシアとその福音（神の国が到来したこと）について書かれた書物、と説明しました。

イスラム教では、イエスは預言者のひとりですが、キリスト者にとっては、神の御子、神であり、救い主として、そのいのちを私たちの罪の代価としてささげてくださった方。だから、キリスト（メシア）が、自分の身代わりに死んでくださったと信じるなら、私たちは救われ、天国へ行くことができるのだ、と説明しました。



すると、彼女は目を大きく開き、キリスト教の救いはそんなに簡単なのか、イスラム教では、死後、最後の審判の日が来たら、それぞれ生前の生き方によって天国へ行くか地獄へ行くか裁かれる、だから毎日5回の祈りをささげ、よい行いに励むのだ、と。そこで、「聖書を読んでみませんか。トルコ語の聖書を持っているから」、というと、彼女

は「是非読んでみたい」と言いました。

トルコ語の聖書は、このような時が来ることを願い祈りつつ、昨年用意してあったものでした。そして、先週、美容室に立ち寄り、聖書を渡しました。どうか主がみことばを通してSさんの目を開いてくださり、イエス・キリストを救い主として信じることができますようお祈りください。

お祈りください

♪もう少し先ですが、5月3日～6月8日に日本に滞在します。以下の奉仕のためにお祈りください。

5月14日（日）10:30～ 北浜チャーチ礼拝 奨励奉仕

5月20日（土）NPO 法人 三島子ども文化ステーション・コンサート

5月25日（木）南港コンサート

♪ 今月、札幌に住む私の父が90歳を迎えます。感謝なことに、とても元気なのですが、年齢が年齢だけに、さまざまな面で助けが必要になって来ました。また、知的障害者の妹のケアもあるので、今後、帰省の頻度と実家での滞在日数を増やすことを考えています。同時に、今が家族への伝道の時でもあると思われています。どうぞ、これからの歩みと、家族の救い、特に父の救いのためにお祈りください。

主イエス・キリストの恵みが、

皆さまとともにありますように！

Atsuko Kudo

